

中海の利活用に関するワーキンググループの検討状況について

平成23年3月23日

【ワーキンググループ概要】

趣旨：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを活用、継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。

参加：鳥取県企画課 水・大気環境課 西部総合事務所県民局 生活環境局
島根県政策企画監室 環境政策課 自然環境課
中国地方整備局出雲河川事務所
中国四国地方環境事務所環境対策課 米子自然環境事務所
米子市企画課 境港市地域振興課
松江市大橋川治水事業推進課 安来市都市政策課 東出雲町農林建設課
(下線は事務局)

【WG開催経過】

WG打合せ会

日時：平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

第1回WG

日時：平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討のテーマを協議。

(テーマ：一体感の醸成～中海でつながる～ 水面のスポーツ利用～中海に親しむ遊ぶ
海藻の利用～中海で循環する～ 食文化～中海の恵みをいただく～
環境学習～中海を知る～)

第2回WG

日時：平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。

検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

第3回WG

日時：平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約、方向性について確認。

協議した項目は別添のとおり。

次回以降(予定)

利活用アイデア(たたき台)について、既存事業や既存団体との関わりや実現可能性、経費面などについて、WGを適宜開催し、個別具体的に検討していく。

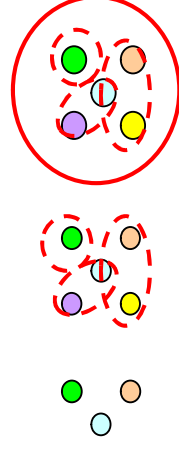
次回幹事会で「利活用アイデア」として報告。

一体感の醸成 ~ 中海でつながる ~

中海ワイズユース住民活動推進プロジェクト

中海圏域の住民から、中海の賢明利用企画の提案を公募する。自然環境と調和し広く圏域住民が中海の恵みを楽しめるものであれば分野を問わない。「自ら実施部門」と「提案部門」を設け、ハードルを低く閥口を広げる。住民から寄せられた提案は、採否にかかわらず様々な方法で情報発信し、ムードづくりを行う。住民自身が、未来志向で楽しい企画を考え、やってみることで、中海への関心や気運を盛り上げる。

個々の
資源活用の
取組みを
みなの
自主企画で
結んで
みんなの
情報も参加も
圏域に広く
開いて
盛り上げる



「中海」冠イベントの普及

山陰両県にまたがる様々なスポーツや文化の大会を両県の連携、交流の象徴として「中海」の冠を付けて開催する。“全山陰中海カップ”と銘打った、バスケット、サッカー、ボートなどのスポーツ系、囲碁将棋、書道、合唱コンクールなどの文化系の大会など。

中海のスローガン・憲章の制定

スローガン・憲章を制定する(規範・規律的なもの、理念普及のためのもの、中海の楽しみ方・遊び方をまとめた中海に親しむためのもの等)。中海を未来へ引き継ぐためのアクションプランのものを策定する。策定の過程では地域住民やNPOも参画。

中海の情報発信の仕組みづくり

【両県連携事業でH23予算化(ポータルサイト設置)】

様々な団体により多様な方法で実施されている中海に関する保全活動や環境教育の取組の情報などについて、トータルで集約できる共通のポータルサイトを両県連携事業として立ち上げる。これを運営する上での、情報の集約やその還元の方法など、WG参加機関で智恵を持ち寄り仕組みづくりを検討する。効果的な情報発信ができれば、取組への参加者の増加や、効果的な事業実施、また参加者のネットワーク化への寄与なども期待できる。

湖面湖岸の利用 ~ 中海に親しみ遊ぶ~

『日本風景街道』の推進

地域の自然や歴史的資源を道路利用者が楽しむ地域づくり活動「日本風景街道事業(国土交通省)登録の、宍道湖・中海・大山圏域ルート」人間文化の原風景~ご縁をつなぐ神仏の通ひ路、を、県境を越えて推進する。
例えば、情報発信の場として道の駅などの活用、案内板の充実、沿線の清掃やオープンカフェなどのおもてなし活動の展開等、といったイメージ。



中海周遊サイクリングロードの推進

景観や観光資源に優れた中海一帯を楽しみながら周遊する「中海サイクリングロード」を設定、マップ化するなどしてPRを図り、レンタサイクルのシステムづくり、休憩・展望所などの空間づくり、さらに路肩整備などの環境整備も視野に入れ、**「中海=サイクリングの一大メッカ」**を目指す。中海「環境=エコ」、心身健康、観光など、いろんな分野でのアプローチ、拡がり期待できる。

マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

ウィンドサーフィン、シーカヤック、ボートなどのマリンスポーツ、釣りなどのレクリエーションエリアとして、充実させる。
「トレーニング」参加「観覧」といった活動が楽しめるエリアにするためには親水空間と設備を整備することが必要(休憩スペース、駐車場、水道、トイレ等)



環日本海国際トライアスロン in NAKAUMIの創設

「皆生トライアスロン」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設する。「皆生トライアスロン」のコースは弓ヶ浜半島の日本海側から大山山麓となっているが、「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景(江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等)を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらおう。道の駅も活用し、「中海サイクリングロード」とリンクさせる(このほか「泳ぐ」競技として、海、川や湖など自然の中で泳ぐ「オープンウォーター・スイムレース」などもある)

エコシップコンテスト in NAKAUMIの創設

中海周辺には、電気関係の事業や高等教育機関、造船所やエネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する(「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗)。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。環境対応型の地域産業の振興にも繋がる、エコタウンエリアとしてのPRなど、相乗効果も期待できる。

また、「エコシップ」という響きから、「船」だけでなく、広くエコに関する取組のコンテスト等を行う。

藻の活用 ~ 中海で循環する ~

道路植栽等への藻の利用

道路や公園植栽等への土壌改良に中海や流入河川の藻を使用することで、中海の水質浄化を促進する。水質悪化の一因となるものを引き上げ堆肥化し、管理公共物等に活用するという環境浄化サイクルのモデルを、行政が積極的に示すことで、意識啓発と水質改善の促進を図る。



中海への流入河川の藻狩り体験

〔両県連携でH23予算化事業あり
(中海での藻狩りイベント)〕

中海に流入する河川の藻狩りを、県、沿岸市町、住民等(NPO、自治会、一般市民、商店街等)が連携、協力して実施する。中海への流入負荷の軽減を図るとともに、住民の「水質・環境」への関心を高める。流入河川域全体で取り組みれば、負荷軽減の効果が上がり、地域間の連帯も強まるのではないかと。

(「環境教育」に再掲)

海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築

〔両県連携事業で
H23予算化〕

中海の未活用資源となっている海藻を除去することにより、水質汚濁負荷となる栄養塩を湖外搬出するとともに、除去した海藻を産業等への原材料として活用し、循環させるためのモデル的な仕組みの構築を図る。

藻の活用に関する事業、両県連携事業としてH23予算化
『海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業』ほか

海藻刈り・湧水調査・産業利用(イメージ)



海藻の機能性素材としての検証

〔H23予算化事業(島根県)あり〕

藻の機能性素材としての可能性、産業利用できるシーズとなるかを調査分析する。回収藻類の健康食品、機能性食品添加物等への有効利用の可能性などが実証できれば新たな産業の創出へつながる。

食文化 ～ 中海の恵みをいただく～

中海エシカル・フードの開発・提供 ～ 公共施設食堂等での 中海産水産物を使った中海環境募金付き「中海メニュー」の設定～

中海で取れる各種水産物をまずは、関係自治体職員等が実際に食することにより、中海産の水産物への関心を醸成する。併せて、地域でのPRを進め、地産地消、ブランド化、食文化の形成、水産振興等に向けての足がかりを掴む。提供価格には、「中海環境募金」として一定額(5%程度)を上乗せし、中海に関するNPO活動等への支援金とする。

中海産の水産物については、かつてはサルボウ貝等、全国の中でも一大産地となっていたが、近年は水揚げ高の大幅減少もあり、未利用状況。民間では、宍道湖・中海七珍対決、料理店での提供の動きもあるが、一般的には中海産の水産物に対する関心や、利用は低い状況である。

そこで、広く関心を喚起するため、まずは、圏域関係庁舎食堂等において、食材を使ったメニューを提供することからスタートし、徐々に展開していく。(藻を肥料とした、米、野菜や、新規開発の機能性食材等も含む。)

また、可能であれば、学校給食メニュー(オゴノリ、ハゼ、アサリ、ママカリ等)にも取り入れる。なお、子供や、一般からの中海産品を使ったメニュー募集、創作料理コンテストや、マラソン大会等周辺各種イベントでの提供等も考えられる。将来的には、民間の飲食店等へも拡大も促す。

(中海市長会の取組、学校給食への食材提供) ～ 中海市長会HP～)

学校給食に圏域内の特産食材(かに・しじみ)を使用

米子市、境港市、松江市、安来市、東出雲町の学校給食に圏域内の農産物、水産物、又はその加工品を取り入れ、子どもたちに特産食材の由来や地域の食文化等の知識を伝えることで、圏域に愛着が持てる取組を推進しました。

提供期間	平成22年1月14日～2月1日
提供食材・食数	かに(境港市) 34,135食 しじみ(松江市) 32,941食

H23.1月には「全国学校給食週間」にあわせて5市町の小中学校等で宍道湖産シジミ、境産産スワイガニなどを提供



エシカル(ethical)は、本来「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、近年「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。

「中海」の食材を使用し、食した代金の一部を「寄付金」として「中海」の環境保全等に還元することにより、地元産の自然の恵みを循環利用する取組としての「中海版エシカルフード」の展開を目指す。

漁業振興の取組：養殖の研究
(鳥取県水産試験場での“サルボウ貝”養殖試験の様子)



(島根県藻刈りイベントの際に提供された
中海の食材を使った特製弁当)



環境教育 ～ 中海を知る～

こどもラムサール全国湿地交流会

〔両県連携事業でH23予算化〕

島根・鳥取の次世代を担う子どもたちに、貴重な財産である宍道湖・中海を保全し、有効に活用する意識を醸成するため、全国各地のラムサール登録湿地で活動を行っている子どもたちを招聘し、意見交換・事例発表など学習交流会を開催する。宍道湖・中海と共通項(汽水湖・漁り鳥・漁＝食)を持つ全国湿地から招聘し、相互理解と山陰両県からの情報発信を進める。併せて、両県による「賢明利用リレートーク」において活動発表を行う。



賢明利用リレートーク

〔両県連携事業でH23予算化〕

ポストラムサール条約登録5周年記念事業(ラムサールネットワーク形成事業)として宍道湖・中海の環境保全・賢明利用の取組を一層推進するため、両県によるリレートークを開催する。本年度のラムサール登録5周年記念事業による意識醸成を、単発で終わらせなく、両県連携により取組を継続していく。

中海への流入河川の藻狩り体験

〔両県連携事業でH23予算化
(中海での藻狩りイベント)〕

(「藻の活用に」再掲)

環境負荷の軽減行動の指標化～わたしたちにできること～

清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質にプラス、マイナスの貢献をしている関係を解り易くするため、数値化又は指標化する。学習教材やホームページに反映し、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む。(例)海藻、川藻の水中からの引き上げ 100kg
生活排水が流れる側溝の清掃 100m
有機農業化 1反
水辺で遊んで「大切な環境」と感じる
下水道に接続 1軒
食べ残しを排水に直接流さない 365日
等

高等教育機関と連携した人材育成

大学と行政が連携して、中海に愛着や興味、環境に意欲がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。単発ではなく一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。受講者に、中海に関する「学び」を通して、生涯学習的な充実感を得るとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらおう。

その他提案

中海周遊船の運航支援

中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航支援を、周辺自治体で連携して行う。イベント的に一定時期に限定実施方法、何らかのイベントとのタイアップなどの方法でも、定着すれば風物詩的なものになるのではないか。



(民間会社等の遊覧船)

中海圏域『E Vカーでエコツアー』推進

中海・宍道湖エリアにE V充電施設を集中的に整備し、観光地をレンタルE Vカーで周遊できる環境をつくるなどして、環境にやさしいまちをPR。中海の水質という環境問題を身近にもち、環境への意識も高い中海圏域で、率先して環境に優しいE V車の普及促進に取り組む。

- ・急速充電器などのインフラ整備
- ・ドライブレコーダー、ゾーンを設定し、マップ等を作成するなどPR
- ・レンタカー、カーシェアリングによる利用システムの構築 等



急速充電器(西部総合事務所)

動物プランクトンを活用した観賞用海水魚等の餌生産

中海の大きな問題は富栄養化であるため、中海から有機物を如何に取り出すかが重要。中海は多量のカイアシ類(動物プランクトン)が発生する海域でもあるので、カイアシ類を種苗生産や観賞用海水魚等の餌として採集、販売する。生態系への影響等を十分検証の上、新しい産業創出につなげる。

平成 23 年度当初予算 島根県と鳥取県の連携事業について

【中海浄化対策】

(単位：千円)

区 分	事 業 内 容	予 算 額		
		鳥取県	島根県	合 計
水質浄化	(共通) 海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築	6,000	6,000	12,000
自然再生に係る調査・研究	(鳥取県) 地下湧水の水質浄化効果の調査検証⇒浅場造成等の施策に資するモニタリング	3,498	—	3,498
産業利用に係る調査・研究	(島根県) 海藻の利活用方法の調査・研究 (健康食品等への活用、肥料成分分析、堆肥化技術、海藻の生育・量の推定調査)	—	4,000	4,000
合 計	—	9,498	10,000	19,498

海藻刈り・湧水調査・産業利用(イメージ)



【ラムサール条約関連事業】

(単位：千円)

区 分	事 業 内 容	予 算 額		
		鳥取県	島根県	合 計
中海・宍道湖 情報館	共同ホームページ イベント情報の発信、メールマガジン、 ブログ等	500	500	1,000
シンポジウム	古事記、生物（魚、鳥、貝、水草等）の テーマを設定 島根2回、鳥取2回、合同1回の合計5回	1,500	1,500	3,000
こどもラムサ ール全国湿地 交流会	次世代のリーダー育成 「渡り鳥、食等」をテーマとして他のラム サール条約登録湿地からこどもたちを 招聘し、情報交換や交流会を実施	1,500	1,500	3,000
中海・宍道湖 一斉清掃等	平成23年6月第2週日曜日開催 セレモニーは松江江市で開催予定 海藻刈り体験 等	200	960	1,160
合 計	—	3,700	4,460	8,160

写真は、平成22年度の連携事業です。イメージとしてご覧ください



シンポジウム



北東アジアこども交流



中海一斉清掃



中海市長会平成 23 年度事業計画（案）について

（中海利活用関係事業を抜粋）

（１）北東アジアから世界へつながる西日本のゲートウェイの構築

境港・米子空港の利用促進

（２）中海をはじめとする豊かな自然と人が織りなす調和の実現

自然環境の保全・活用

電気自動車・急速充電器整備事業（新規）

自動車から排出される CO2 削減にむけ、電気自動車及び急速充電器を中海圏域で率先して導入し、住民の環境に対する意識啓発を図るとともに、中海圏域振興ビジョンで目指す環境重視の姿勢、さらには圏域が一体的なものであることを強くアピールしていく。電気自動車は公用車として利用するとともに啓発活動に活用し、各市の実情に応じ休日は観光客に貸出すなどの事業を行う。急速充電器は、30 k m 間内の距離で配置し、圏域内の充電ネットワークの構築を図る。

なかうみ自然体験学習事業

次代を担う圏域の小学生に中海の現状を知ってもらうため、船により中海を遊覧し、船上で中海の水質や課題などを学習する取り組みを行なう。

ジュニアヨット大会開催支援事業

中海を活用したヨットレースで、ジュニアの全国大会である「全日本ジュニアヨットレース」の開催費用の一部を助成し支援する。

（３）自然・人材・技術の連携による世界に誇る中海ブランドの創出

産業振興

観光振興

（４）４市１町がつながり、あたかもひとつのように機能するまち

都市機能の連携・補完

圏域共同の情報発信

なかうみマラソン全国大会による圏域 P R 事業

名称に「中海」（なかうみ）を掲げ、圏域内外から 5000 人が参加する「なかうみマラソン全国大会」の情報発信を強化することで、全国的にこの圏域を P R するとともに、住民交流を促進する。

振興ビジョン広報

圏域一体感の醸成

中海ライドを通じた交流事業（新規）

中海を1周しながら沿岸4市1町を周遊するサイクリングイベント「中海ライド」を共催により実施し、住民の交流と一体感の醸成を図る。

中海圏域連携事業補助金

圏域住民の文化・スポーツ等の交流を促進する事業など、中海圏域の住民や団体が一緒になって取り組める事業を実施する団体に対し、その事業費の一部を補助し、住民交流を推進する。

圏域内ネットワークの強化

中海周遊マップ作成事業（新規）

中海を周遊するルートと、そこから見える景観写真を掲載したマップを作成する。周遊ルートから見える景観を対象にしたフォトコンテストを実施し、応募作品をマップに掲載する。

人材の育成

平成23年度中海会議スケジュール等（案）

1. 会議開催スケジュール（案）

1) 中海会議及び幹事会・・・松江市内を予定

- ・中海会議（7月～8月頃）
- ・幹事会（7月～8月頃）・・・中海会議開催1ヶ月前程度

第2回目以降の開催については、協議検討状況等に応じて、別途調整。

2) 各部会・WG

- ・中海会議スケジュール、会議での協議結果を念頭に、4月以降適宜開催（担当事務局調整）

2. 事務局【主務】（案）

- ・中海会議及び幹事会・・・島根県政策企画局政策企画監室
- ・中海湖岸堤等整備に係る調整会議・・・国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
- ・中海の水質及び流動会議・・・島根県環境生活部環境政策課
- ・中海沿岸農地排水不良ワーキング・グループ・・・米子市経済部農林課
- ・中海の利活用に関するワーキング・グループ・・・鳥取県企画部企画課

3. その他

1) 各機関担当窓口（担当者）の確認について

- ・人事異動、組織改編等による窓口（担当者）の変更も考えられるため、中海会議及び幹事会は事務局が、確認作業を実施。（3月下旬依頼、4月上旬に集約）
- ・各部会、WGは確認作業を実施（3月下旬依頼、4月上旬に集約）し、中海会議事務局へ報告。

2) 各部会、WGからの情報提供について

- ・各部会、WGの事務局【主務】は、各会議の開催、会議結果等について、遅延無く中海会議事務局【主務】へ情報提供する。